

町制施行 55 周年を迎えて

昭和 45 年 11 月 3 日に町制を施行してからの 55 年を振り返ると、高度経済成長期の中で首都近郊のベッドタウンとして大きく発展しながらも、豊かな自然と農業が共存する、魅力あふれる町として進化してきたと感じています。

特に 50 周年からこの 5 年間の取り組みでは、世界農業遺産に認定された武蔵野の落ち葉堆肥農法をはじめとした SDGs のまちづくりを進めています。国際交流では、令和 7 年度韓国河東郡と友好都市協定、またオーストラリア教育省と教育分野における協定を結び、グローバル人材の育成のため、これまで以上に草の根的な交流を推進していきます。また東京 2025 デフリンピックでは三芳町はマレーシアのホストタウンになっています。さらにマレーシア在住でろう者のバティックアーティスト、リム・アヌア氏による庁舎ペイントアートも完成し、これら一連の事業を通じて、共生社会の実現と理解が深まることを願っています。

今後も、「誰一人取り残さない 共に生きる幸せなまち三芳」の実現を目指し、町民の皆様のウェルビーイングが実感できるまちづくりに、町民の皆様、また関係機関の皆様と共に歩んでいく所存です。引き続き、皆様のご理解、ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。



三芳町長

林 伊佐雄



MIYOSHI TOWN TO THE FUTURE

三芳の未来へ

1970 年（昭和 45 年）11 月 3 日に町制を施行し、今年で 55 周年を迎えた三芳町。未来に向かって、新たな道を歩み始めます。

町

制施行 55 周年記念式典では、町表彰、金婚式表彰、マレーシア・デフリンピック代表選手団壮行式、子どもにやさしいまちづくり宣言、藤久保地域拠点施設愛称発表、三芳町ふるさと大使の任命を行いました。

「マレーシア・デフリンピック代表選手団壮行式」ではデフリンピック本番に向けキャンプを行ったデフリンピアンに対し、会場全体でエールを送り、「子どもにやさしいまちづくり宣言」では、子どもの意見を聞き、子どもと大人が力を合わせてまちづくりを行うことを高らかに宣言しました。

近年、私たちを取り巻く環境は大変厳しく、少子高齢化や人口減少、子育て支援、自然災害の激甚化など多くの課題に直面しています。

三芳町は地域に根ざした自治体の役割として、様々な事業を通じて、まずは身近なところから持続可能な社会の実現に向け、さらに邁進していきます。



勝俣 陵

三芳町出身のプロゴルファー。14 歳からゴルフを始め、2017 年にプロへ転向。今年 9 月の「パナソニックオープンゴルフチャンピオンシップ」優勝など受賞歴多数。



リム・アヌア

マレーシア・ペタリングジャヤ市（三芳町の姉妹都市）生まれのバティック（マレーシアの伝統的な染物）アーティスト。生まれつき耳が聞こえないろう者。役場のエントランスに壁画を制作。



大野 凜

三芳町出身のピアニスト。武蔵野音楽大学卒業。これまでパリ・ドイツにて演奏を行う。ハチャトゥリアン国際コンクール出場。日本フィルハーモニー交響楽団の定期演奏会でも客演。



織原 良次

三芳町出身のフレットレスベース奏者。全てのキャリアにフレットレスベースで応えてきた世界的にも数少ない専門奏者。世界的なジャコ・パストリアス研究家としても認知されている。



小松 悦子

豊島区出身・三芳町育ち。勲ヤマハの講師研修スタッフとして音楽普及に励む。Nova Sentimental として演奏活動や作曲にも傾倒し TV プロモーションなどに起用される。



や団

中嶋享（写真右・三芳町出身）・本間キッド（写真中央）・ロングサイズ伊藤（写真左）の 3 人によるお笑いトリオ。2007 年 4 月結成。TBS「キングオブコント 2025」準優勝など受賞歴多数。



新たに 6 組を任命！（敬称略）

各分野で活躍する三芳町にゆかりのある人をふるさと大使に任命します。大使は、町の PR や高い見識によるまちづくりへの助言を行い、町も応援団として大使の活動の応援支援を行います。詳細は右コード参照。

